

科目名称	看護学概論（看護学科）
授業コード	BK103
英語名称	Introduction to Nursing Science
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	石田 清美
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	「看護とはなにか」について、一人ひとりが考えつづけ、自分の看護観を構築するための手がかりを得られるよう講義する。看護学の主要な概念である「人間」、「健康」、「環境」、「看護」について講義・自己学習・グループ学習などを通して学び、看護の専門性や看護の機能・役割について明らかにする。そして看護の理論や看護活動の場、関連法規について学び、看護を実践していくうえで看護専門職を目指すものとしての姿勢や態度を探究する。さらに看護職としてチーム医療の担い手としての役割を学ぶ。看護学が発展していくための課題を追求し続ける意識と態度を培う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	・授業において、看護師として臨地経験のある教員が、医療現場の課題について多面的な視点と実務経験を活かして講義する。
到達目標	<p>・この科目は、専門分野の「看護の基本」の科目の一つである。・ディプロマ・ポリシーに掲げる「豊かな教養と倫理観を身につけている。」「科学的な根拠に基づき、対象の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している。」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門知識・技術を有している。」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる。」「看護の発展に貢献しうる看護専門職としての主体的学修能力を身につけている。」を達成する。</p> <p>・カリキュラム・ポリシーに掲げる「対象の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる。」「看護学としての専門知識・技術を学び、論理的思考を修得するため、看護の基本、看護援助の方法、看護の実践、看護の発展を理解する。」以上をふまえ、以下の8つを到達目標とする。</p> <p>1. 生活者である人間に対して、看護はどのような役割を果たすか。また、個人だけでなく家族・集団・地域も看護の対象であることを理解する。2. 「健康とは」「障害とは」なにか、「健康」「障害」をどのようにとらえるべきかを理解する。3. 看護が現在のかたちになるまでの歴史の変遷と、さまざまな理論家による看護の捉え方を理解できる。4. 倫理とはなにか、看護職をみざすなかで、看護職がどのような倫理規定をもち、どのように活用できるか考え理解することができる。5. 看護をめぐる制度と政策を理解する。6. 「看護とはなにか」を考える際の「サービスとしての看護」を理解する。7. 国際看護学の流れを把握し、国際的にどのような健康問題が課題であるのか理解する。8. わが国における看護職の成立と発展、看護職の資格と養成制度について学び、看護職者の免許取得後の継続教育の概要を理解し、看護職としての「キャリア開発」について考察できる能力を培う。</p>
計画・内容	<p>第1回 看護の基本概念 「看護の役割と機能」</p> <p>第2回 看護の基本概念 「健康」「環境」「看護」</p> <p>第3回 看護をめぐる制度 「看護職の資格・養成制度・就業状況」</p> <p>第4回 看護学教育の歴史の変遷と課題 「職業としての看護」</p> <p>第5回 看護サービス提供の場</p> <p>第6回 国民の健康状態と生活</p>

計画・内容	<p>第7回 看護の対象と健康のとらえ方</p> <p>第8回 看護の対象と健康と環境のとらえ方</p> <p>第9回 看護実践における理論的根拠 F・ナイチンゲール看護論、V.ヘンダーソン看護論</p> <p>第10回 看護の継続と情報共有</p> <p>第11回 保健医療福祉サービス提供システム</p> <p>第12回 医療安全と看護倫理 「医療安全管理」</p> <p>第13回 医療安全と看護倫理 「命の尊厳と看護倫理」</p> <p>第14回 生涯教育とキャリア発達</p> <p>第15回 これからの看護師に求められること</p>
授業の進め方	<p>1. 授業の進め方は、講義を中心とするが、グループワーク、ディスカッションなどを適宜組み合わせで行う。授業では自己の考え、感じたこと等述べ、他者の意見を聴く等、積極的に参加することを期待する。随時小テストも行う。授業の進行状況によって授業内容を変更する場合がある。</p> <p>2. 授業時間外の学習は、予習・復習の指示に基づいて学習する（予習：1時間程度、復習：1時間程度）。タイトルまたはキーワードに関して基本的な理解を得ておくこと。キーワードに関しては予習で授業前に言葉の意味を調べ授業に臨む。</p>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学生への質問も活発に行うので、積極的な授業態度が期待される。 ・グループ分けを行い、課題について全員でディスカッションを行い、解決案を導いていく。
授業時間外の学修	<p>予習：1時間程度。復習：1時間程度。</p> <p>予習：授業内容についてテキストや参考文献を読み、学習した内容をレポートする。</p> <p>復習：配布資料や授業中書き留めたメモなどをまとめ、ノートを作成する。また、課題に基づきレポートする。</p>
教科書・参考書	<p><教科書></p> <p>茂野香おる 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 看護学概論 医学書院</p> <p>F.ナイチンゲール：「看護覚え書」現代社</p> <p>V.ヘンダーソン 湯楨 ます訳：「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会</p> <p>*他教材は適宜プリントを配布しながら行う。筆記用具、ノート、教材や資料を保管するためのA4版のファイルを各自準備すること。</p> <p><参考書></p> <p>T.ヘザー ハードマン他、上鶴重美：「NAND 看護診断 定義と診断」医学書院</p> <p>M.メイヤロフ；田村真訳；ケアの本質 生きることの意味、ゆるみ出版</p> <p>パトリシア・ベナー；井部俊子監訳 ベナー看護論 新訳版 初心者から達人へ 医学書院</p> <p>茨木保：ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに 医学書院（まんがによる生涯と看護覚え書）</p>
成績評価方法と基準	<p>授業での発表内容、課題レポート、学びの振り返りシート、小テストなど（40%）と定期試験(60%)を総合的に評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>リアクションペーパーや小テストについては、授業開始時にフィードバックを行う。</p>
オフィスアワー	<p>Campus Squareを参照</p>
留意事項	<p>この授業は、自己の看護観を深め看護学の基礎を学ぶ科目である。看護の歴史の変遷を我国と諸外国とを比較し、現状と課題を考えていく力を養って行きます。また、自分の考えを他者に伝える力も重要になってきますので、共通科目、専門基礎科目をしっかり履修すること。</p>

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業となった場合 Zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせる。 授業中課題 40%と期末レポート 60%で評価する。
------------------------------------	--